

ワンヘルスについて

【調査目的】

今、地球上では、人口増加、森林開発や農地化などの土地利用の変化によって、自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動が生じています。また、人が今まで立ち入らなかった自然の奥地にまで侵入することなどで、野生動物との接触の機会が増え、新型コロナウイルス感染症をはじめとする人と動物の双方に感染する「人獣共通感染症」が増えています。

こうした問題に対応するためには、人と動物の健康と環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的に守っていく「ワンヘルス (One Health)」の考え方が重要です。この考え方は、世界的に広がっており、「G7 サミット」など国際間の枠組みでも合意されています。

県では、みやま市に全国初のワンヘルスの実践拠点となる「ワンヘルスセンター」の整備に向けて準備を進めるなど、全国に先駆け、ワンヘルスの推進に取り組んでいます。

今後、より一層の取組を進めるにあたり、「ワンヘルス」について皆様の御意見をお聴かせいただき、事業及びその評価などの参考とさせていただきたいと思っております。

(保健医療介護部保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室)

1 令和4年度第5回県政モニターアンケート調査

(概要)

モニター数： 399 人

回答数： 350 人

回収率： 87.7193%

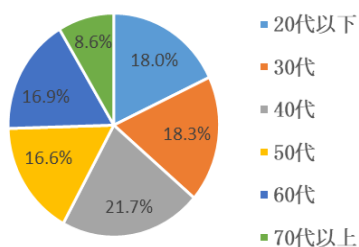
実施期間： 令和4年11月24日～令和4年12月11日

(回答者構成)

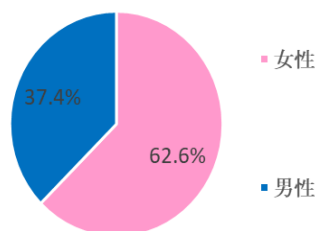
(n=350)

項目	計		北九州	福岡	筑後	筑豊	
	人数(人)	構成比					
総数	人数	350	84	173	55	38	
	構成比		24.0%	49.4%	15.7%	10.9%	
性別	女性	219	50	106	38	25	
	男性	131	34	67	17	13	
	その他	0	0	0	0	0	
年代別	20代以下	63	14	29	9	11	
	30代	64	15	32	10	7	
	40代	76	16	40	14	6	
	50代	58	14	29	9	6	
	60代	59	16.9%	15	27	10	7
	70代以上	30	8.6%	10	16	3	1

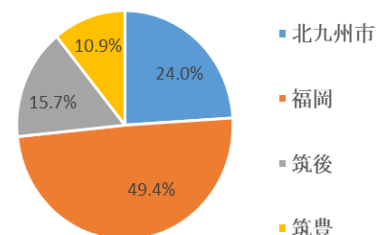
回答者構成 (年代別)



回答者構成 (男女別)



回答者構成 (地域別)



(n=350)

2 調査結果

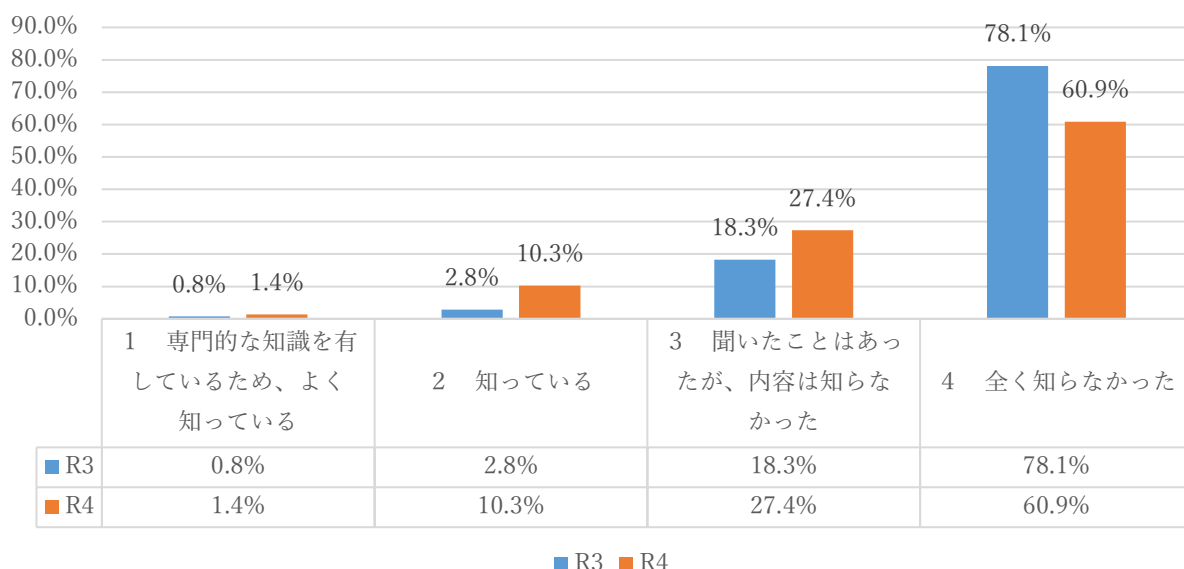
問1 あなたは、「ワンヘルス」とは何か知っていましたか。次の中から【1つだけ】選んでください。

【全体】

(n=350)

選択肢	R3		R4	
	回答数	割合	回答数	割合
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3	0.8%	5	1.4%
2 知っている	10	2.8%	36	10.3%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	66	18.3%	96	27.4%
4 全く知らなかった	281	78.1%	213	60.9%
合計	360	100.0%	350	100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1~3と回答した方)	79	21.9%	137	39.1%

ワンヘルスの認知率



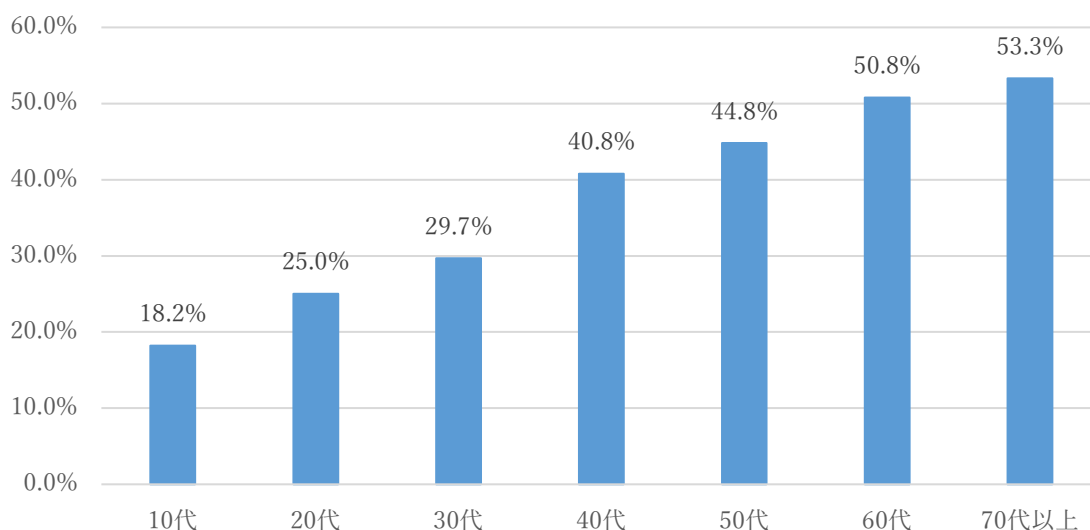
- ・ 昨年に比べてワンヘルスの認知率は 17.2%増加した。(R3:21.9% → R4:39.1%)
- ・ 「ワンヘルス」という言葉を知っている方は全体の4割弱であり、今後もワンヘルスの認知率向上を図る必要がある。

【年代別】

(n=350)

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	0.0%	0.3%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%
	0人	1人	0人	2人	2人	0人	0人
2 知っている	0.3%	1.1%	1.4%	2.3%	2.6%	0.9%	1.7%
	1人	4人	5人	8人	9人	3人	6人
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	0.3%	2.3%	4.0%	6.0%	4.3%	7.7%	2.9%
	1人	8人	14人	21人	15人	27人	10人
4 全く知らなかった	2.6%	11.1%	12.9%	12.9%	9.1%	8.3%	4.0%
	9人	39人	45人	45人	32人	29人	14人
合計	3.1%	14.9%	18.3%	21.7%	16.6%	16.9%	8.6%
	11人	52人	64人	76人	58人	59人	30人
各年代で「ワンヘルス」という言葉を知っている方(1~3と回答した方)	18.2%	25.0%	29.7%	40.8%	44.8%	50.8%	53.3%
	2人	13人	19人	31人	26人	30人	16人

年代別の認知率



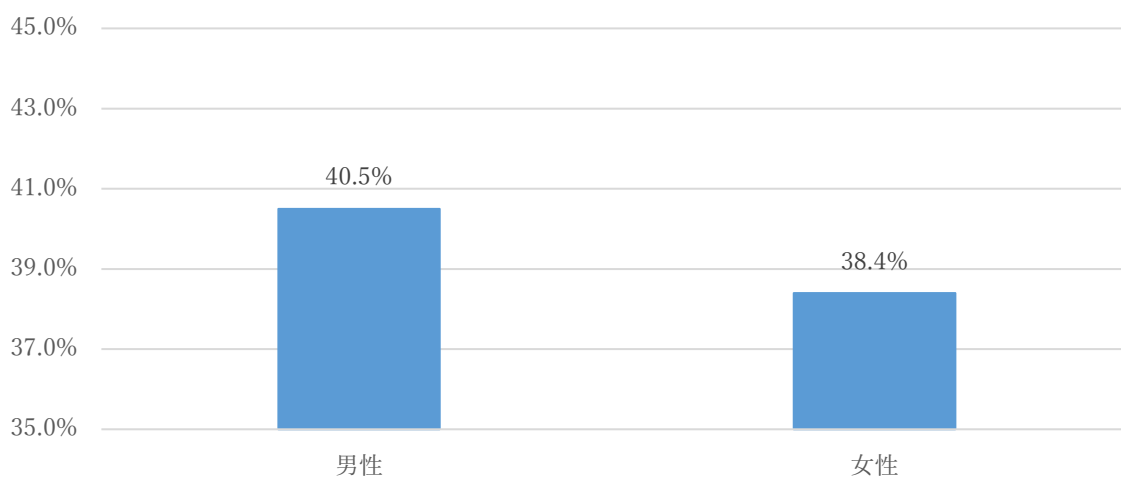
- ・年代別では、年代が上がるほど、ワンヘルスの認知率は高い。
- ・30代以下の認知率は、いずれの年代も30%以下と低い水準であり、今後、若い世代への周知に力を入れる必要がある。

【男女別】

(n=350)

選択肢	男性		女性	
	回答数	割合	回答数	割合
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	2	0.6%	3	0.9%
2 知っている	18	5.1%	18	5.1%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	33	9.4%	63	18.0%
4 全く知らなかった	78	22.3%	135	38.6%
合計	131	37.4%	219	62.6%
各性で「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	53	40.5%	84	38.4%

男女別の認知率



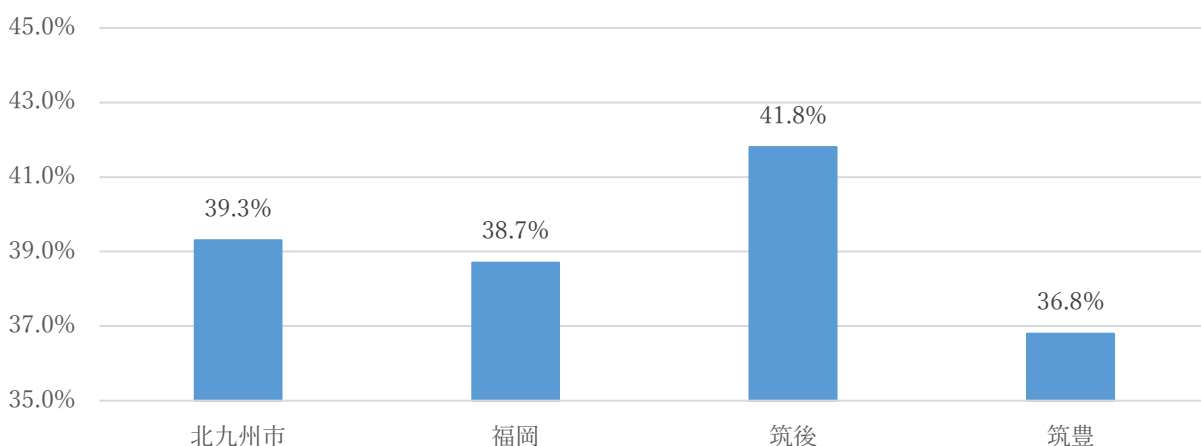
- ・男女別ごとのワンヘルスの認知率は、男性40.5%、女性38.4%であり、性別による認知率の差は見受けられない。

【地域別】

(n=350)

選択肢	北九州	福岡	筑後	筑豊
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	0.3% 1人	1.1% 4人	0.0% 0人	0.0% 0人
2 知っている	2.9% 10人	4.9% 17人	1.7% 6人	0.9% 3人
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	6.3% 22人	13.1% 46人	4.9% 17人	3.1% 11人
4 全く知らなかった	14.6% 51人	30.3% 106人	9.1% 32人	6.9% 24人
合計	24.0% 84人	49.4% 173人	15.7% 55人	10.9% 38人
各地域で「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	39.3% 33人	38.7% 67人	41.8% 23人	36.8% 14人

地域別の認知率



- ・地域別のワンヘルスの認知率は、最も高かったのが筑後地域の41.8%、最も低かったのが筑豊地域の36.8%であり、地域ごとに大きな差は見受けられない。

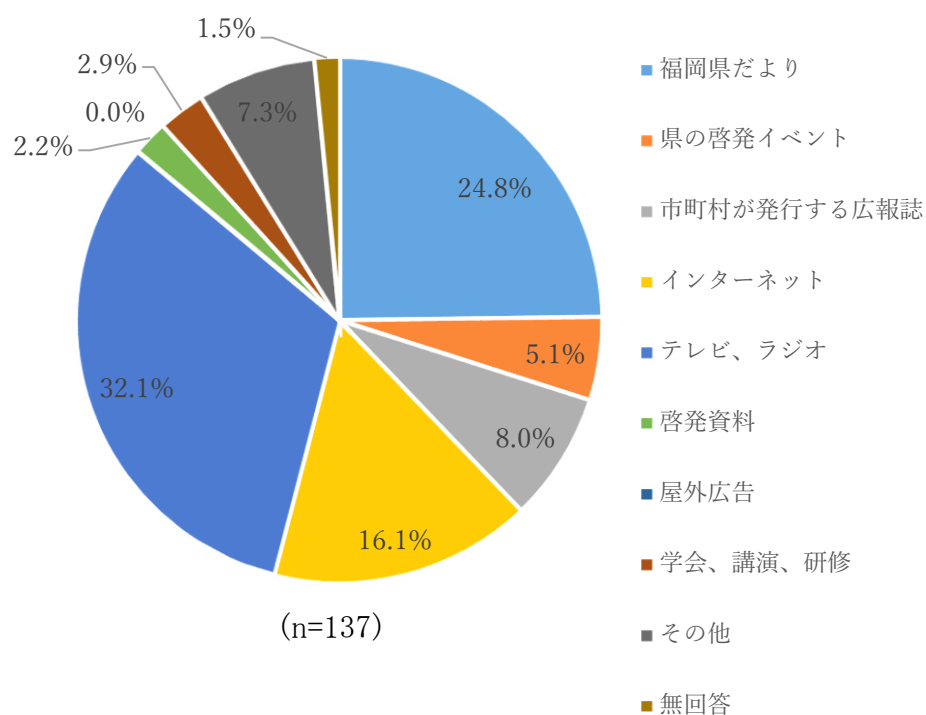
問2 (問1で「1～3」を選択された方にお尋ねします。)

「ワンヘルス」という言葉をどのように知りましたか。次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=137)

選択肢	R4	
	回答数	割合
1 福岡県だより	34	24.8%
2 県の啓発イベント	7	5.1%
3 市町村が発行する広報誌	11	8.0%
4 インターネット (県HP、ワンヘルス推進ポータルサイト、 広告など)	22	16.1%
5 テレビ、ラジオ	44	32.1%
6 啓発資料 (ワンヘルス推進冊子、ワンヘルス教育啓発資料、チラシ など)	3	2.2%
7 屋外広告	0	0.0%
8 学会、講演、研修	4	2.9%
9 その他	10	7.3%
無回答	2	1.5%
計	137	100.0%

ワンヘルスをどのように知ったか



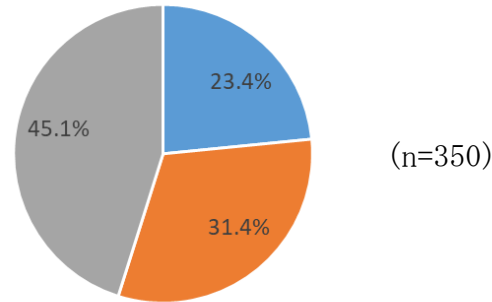
- ・ワンヘルスについて知っている人が、どのようにワンヘルスを知ったかについて、最も多かったのが「テレビ、ラジオ」、続いて、「福岡県だより」「インターネット」の順であった。
- ・テレビ、ラジオ、インターネットを合わせると5割弱を占めており、日常生活で触れることの多い媒体が有効であると考えられる。

問3 あなたは日常生活の中で、動物とふれ合う機会がありますか。次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=350)

選択肢	回答数	割合
1 現在、ペットを飼っており、日常的にふれ合う機会がある	82	23.4%
2 ペットは飼っていないが、動物とふれ合う機会がある（ふれあい動物園やイベントなど）	110	31.4%
3 動物とふれ合う機会はない（アレルギーがある、動物に興味がないなど）	158	45.1%
合計	350	100.0%
動物とふれ合う機会がある方（1～2と回答した方）	192	54.9%

動物とふれ合う機会



- 現在、ペットを飼っており、日常的にふれ合う機会がある
- ペットは飼っていないが、動物とふれ合う機会がある
- 動物とふれ合う機会はない

・ 2人に1人は動物と触れ合う機会があり、高い割合であることがわかる。

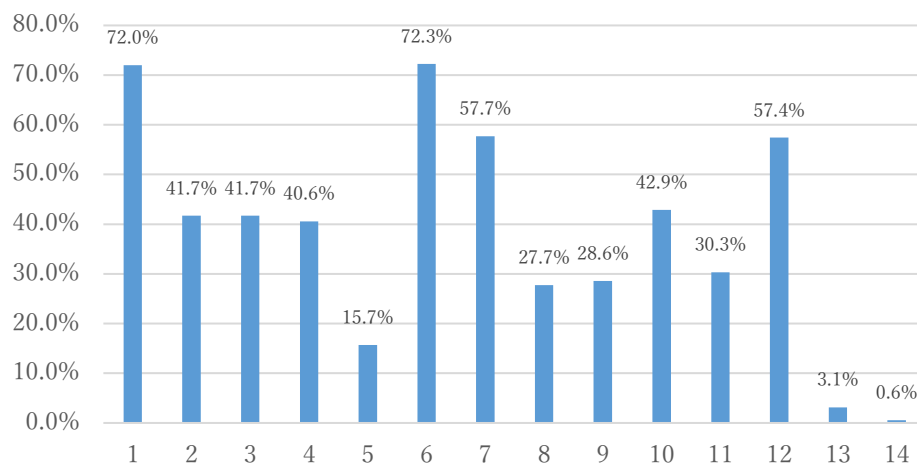
問4 県では、ワンヘルスの課題に対し、「人獣共通感染症対策」、「薬剤耐性菌（抗生物質などが効かない、または効きにくくなった細菌）対策」、「環境保護」、「人と動物の共生社会づくり」、自然や動物とのふれ合いを通じた「健康づくり」、「環境と人と動物のより良い関係づくり」を進めています。これらに関して、あなたが、日常生活の中で取り組んでいることはありますか。次の中から該当するものを【全て】選んでください。

(複数選択可) (n=350)

選択肢	回答数	割合
1 動物に触れた後は、手洗いをし、清潔に保つ（人獣共通感染症対策）	252	72.0%
2 ペットに口移しで食事を与えるなど、過剰な接触を避け、人と動物の共通感染症にかかることを防止する（人獣共通感染症対策）	146	41.7%
3 登山や里山など野生動物が多く生息するような環境に出かける際は、マダニなどに咬まれないようにするため、長袖、長ズボンなどを着用し、感染防止に努めている（人獣共通感染症対策）	146	41.7%
4 病院や薬局で処方された抗生物質は、途中でやめないなど、用法用量を守り、薬剤耐性菌を生む要因の発生防止に貢献する（薬剤耐性菌対策）	142	40.6%
5 移動の際は自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献する（環境保護）	55	15.7%
6 買い物の際にはレジ袋をもらわず、エコバッグを持参し、プラスチックごみの削減に貢献する（環境保護）	253	72.3%
7 野生動物にはむやみに近づかない、餌付けをしないなど、適正な距離を保つことを理解している（人と動物の共生社会づくり）	202	57.7%
8 ペットを飼う場合は、その健康管理を行うとともに、飼育環境を清潔にする、散歩中の糞は持ち帰るなど、適切に管理している（人と動物の共生社会づくり）	97	27.7%
9 ハイキングや森林浴などにより、自然とふれ合うことで、身近な自然への理解を深めている（健康づくり）	100	28.6%

10 食材を購入する際は、できる限り地元で生産された農産物を選び、地産地消に取り組んでいる（環境と人と動物のより良い関係づくり）	150	42.9%
11 食材を購入する際は、低農薬など、環境負荷の少ない農産物を選ぶようにしている（環境と人と動物のより良い関係づくり）	106	30.3%
12 買いすぎない、作りすぎない、注文しすぎない、食べきるなどを心がけ、食品ロスの削減に取り組んでいる。（環境と人と動物のより良い関係づくり）	201	57.4%
13 取り組んでいることはない	11	3.1%
14 その他（次の設問で具体的に入力してください。）	2	0.6%

日常生活の中で取り組んでいること



- ・エコバッグ持参による環境保護、次いで動物に触れた後の手洗いによる人獣共通感染症対策が7割以上と、高い割合を占めている。
- ・他の選択肢についても人獣共通感染症対策は全て4割以上であり、ワンヘルスの課題の中で一番取り組まれている。
- ・一方で自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献することについては、15.7%と低くなっており、自家用車が生活において不可欠であることが考えられる。

問5 問4で「14」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

- ・野菜くずは、庭に埋め肥料にしています。【50代 女性（北九州）】
- ・家庭で出る生ごみを段ボールコンポストで堆肥にして、家庭菜園で活用している。【60代 男性（筑後）】

問6 あなたが今後、県のワンヘルスの取組において、求めることがあれば入力してください。

- ・ワンヘルスについて学べたり体験できるような施設をつくり学校等の課外授業で学びに行けるようにしてはどうか。小さいころからの教育が大切だと思う。また、リーフレット等の作製配布、メディア等を利用した広報など行ってはどうか。人畜共通感染症や薬剤耐性菌の問題は今後ますます大きな問題となる可能性が

あると思います。【50代 男性（北九州）】

- ・ 日常生活で出来るだけ無駄を出さないケチな生活をしている。これだけでもかなり環境に良い取り組みだと信じています。万物の消費を出来るだけ減らすように日々心掛けています。【70歳以上 男性（北九州）】
- ・ 自然環境をこれ以上汚染しないために、商業都市であるからこそ販売段階でプラスチック包装の規制を行ったり、リユースできる容器の利用を促進したり、生ごみとプラスチックごみの分別回収を行ったりしてほしい。【18-19歳 女性（北九州）】
- ・ 太陽光を木をたくさん伐採してやたらに作らないこと。木の生育などで専門家にどうあるべきかを聞くこと、必要です。【70歳以上 女性（北九州）】
- ・ 私の住んでいる住宅地は野良猫が多いです。ご近所の人に聞くとエサを与えている人がいるらしく、困ったものです。庭に糞をしている所も多いらしいのですが、注意してトラブルになりたくないの、皆さん我慢してるみたい。そもそも、その野良猫たちも捨てられたので、被害者なのかなど。せめて飼い猫のマイクロチップは義務化して欲しいです。【60代 女性（北九州）】
- ・ 自分以外の人達にももっと良く知らしめて欲しい。最近では犬や猫などのペットに関する番組も多いのでそういう番組の中でも宣伝すればもっと正しい理解が深まるのではないか。【60代 男性（北九州）】
- ・ 知らない人が多いと思うので、まずは伝えていく事が大事だと思う。【40代 男性（北九州）】
- ・ 農薬を使用しているものをなるべく避けるようにする。【40代 女性（北九州）】
- ・ ワンヘルスと言う言葉を初めて聞いたのでもっと多くの人に周知できるよう TVやネットなどで広げていけたらいいなと思います。【30代 女性（北九州）】
- ・ 公共交通機関や公共施設（避難所等）にペットを同伴する場合のルールや料金をわかりやすく提示してほしい。特に災害時の避難所の表記がわかりづらい。【50代 女性（北九州）】
- ・ うちの近所では、野生の猿・いのししが出没することがあります。（裏に山がありそこから降りてくるのだと思います）動物のエサが山で足りるように、取り組みしていただけたらと思います。【50代 女性（北九州）】
- ・ カタカナ語だと取り組みの内容がイメージしづらい。【40代 女性（北九州）】
- ・ 新型コロナウイルス感染症もその発端は中国の食用獣からの感染だといわれています。【60代 男性（北九州）】
- ・ 予知しづらいウイルスが今後も出てくるとは思いますが、結果と傾向を分析して次の打ち手を確実に打っていき、どのような作戦なのか国民にきちんと説明しながら推進いただきたい。
- ・ 今回のコロナ対策では、島国にも拘らず海外からの流入を開けたり閉めたりすることで、感染爆発を繰り返してきました。また、ワクチンについては新しいものができたから接種してと言ってみたり、継続して打ち続けないと効果が切れると言ってみるなど、感染者推移などに基づく対策とはとても思えない打ち手になっています。せめて福岡県だけは、感染者推移や傾向に基づく考え方を示し防疫を行ってほしいです。【30代 男性（北九州）】
- ・ 県がワンヘルス問題に取り組んでいる事は余り認識していなかった。【70歳以上 男性（北九州）】
- ・ SDGsにもあてはまるが、よくわからない言葉は作らないでほしい。言っていることはなんとなく理解できるが、胡散臭く感じてしまう。人の健康と環境保全を一緒に扱うのは無理がありませんか。健康も環境も保全するのは全く同意ですが。【50代 男性（北九州）】

- ・地域のイベントや学校などで、子供も学べる場があると良いなと感じました。【30代 女性（北九州）】
- ・私はワンヘルスを聞いたこともなかったので、ワンヘルスについて、またそれに関する具体的な取り組みについて知る機会があればいいと思います。【18-19歳 女性（北九州）】
- ・良い取り組みと思うのでもっと周知してほしい。【30代 男性（北九州）】
- ・本件とは関係ありませんが、最近イノシシが頻繁に出没する（若松区高塔山）ので早朝の散歩ルートを変えました。同様の人も多いのではと推測します。【50代 男性（北九州）】
- ・啓発活動をもっと行なって欲しい。【50代 女性（福岡）】
- ・今後の具体的事例は積極的に発信いただきたい。【30代 男性（福岡）】
- ・世界的な気候変動により、各地で山林火災が発生しています。その被害は毎年拡大しています。山林火災が発生してからの消火活動よりも、事前に山林火災が起これにくい対策をとるべきです。乾燥し、そして雷などの着火があり発生する山林火災は防ぎようがないかもしれませんが、昔の人は野焼きという方法で火災が起こっても、被害が最小になる生活の知恵がありました。この野焼きを計画的に実行し、山林火災の甚大化を防いで欲しいと思います。【50代 男性（福岡）】
- ・自然に対する畏敬の念を持ち、人にとって便利という理由だけで、むやみに環境破壊、自然破壊に繋がるような施策をとらないことが、人間と野生動物にとって幸せなことだと考える。もっと人間は謙虚になるべきだ。【50代 男性（福岡）】
- ・みやま市に施設できるというニュースは見たことがありました。ただ、具体的なことはほとんど知りませんでした。このような取り組みは、県にしかできない取り組みなのでいいなと感じました。人が生きていくためには、動物からの感染症などに気を付けて行くことが大切です。これからも地道な取り組みと、機会を見つけて「人獣共通感染症」などを県民に知らせていくことが大切だと思います。【60代 男性（福岡）】
- ・ワンヘルスという考え方は知っていますが、個人的にそれが海外のことで自分とは関係がないと考えてしまっています。【30代 男性（福岡）】
- ・時代に即した動物への飼い方などまだ分かっていない人も多くいると思いますので、マニュアル的なものを準備する必要性も感じます。【40代 男性（福岡）】
- ・県内隅々までしっかり行き渡るように、丁寧にゆっくり勧めていただきたいです。【70歳以上 女性（福岡）】
- ・内容を読んでもいまいちワンヘルスの概要がわかりません。設問のような内容であるなら、別に新しい試みではないように思うのですが…。【40代 女性（福岡）】
- ・ワンヘルスという言葉の意味を初めて正確に理解しました。具体的事例を挙げて説明を受けると日常生活の中で気を付けることがよくわかります。【60代 男性（福岡）】
- ・とても必要な取り組みだと思います。無責任なケースや残念なケースをよくニュースで見かけるが、動物の「命」を考えた重要な取り組みだと思います。【40代 男性（福岡）】
- ・上記のことを機会ある毎にピーアールすることが大切だと思います。【70歳以上 男性（福岡）】
- ・私は自分のペットに、自分の口にしたものあげることはありません。ただ、私の母や父は自分の口にしたものを一旦出してペットにあげています。実際それがいけないことであるという認識が、年が上になればなるほど、薄いように感じます。また若い私が言っても効果も無いので、県や市などが発信した方が良いと思います。【20代 女性（福岡）】

- ・ 野生動物とも共存できたらと思います。森林開発も考えてしないと環境破壊に繋がると思います。食べ物がなくて町に降りてくるようになるので、乱開発はやめて欲しいです。【60代 女性（福岡）】
- ・ 全ての事業に言えることだが、まともな行政評価を随時行なって、公表すべき。低農薬など、農家の負担になってはいないか？レジ袋を辞退して、実際にどれほどのプラゴミが減ったか？ゴミ焼却に際して、石油由来のプラゴミが減ると燃料効率は変わるのか？など、事後の評価もお願いしたい。【40代 男性（福岡）】
- ・ たとえば年賀状を環境の為に辞める。デジタルですむ書類はペーパーにしない。野生動物に餌をやらない。【40代 女性（福岡）】
- ・ 無責任な人間が多く、ペットを飼うにあたってはもっと厳格化すべき。【40代 男性（福岡）】
- ・ 庭にイタチが住みついたことがあったが、駆除する方法がわからなくて困った。家にやってくる野生の動物の対応をどうしたらいいのかというようなセミナーがあると助かる。【60代 女性（福岡）】
- ・ 動物を飼う時には責任を持って頂き、決して捨てたりしないよう、厳格なルール作りが必要で、違反者にはペナルティーを課すよう、強めの対策がよろしいかと思います。【50代 男性（福岡）】
- ・ 日本においては他国と違い、人口が減少し、森が荒れ、野生動物が人間のコミュニティにまで侵食してきている。そのため、ガイド育成や登山、ハイキングツアーなどを自然に触れ合う機会を増やし、多くの人に山、森林の現状を知ってもらえば、そのようなところに人が帰ってもらい、里山、環境作りができると思う。【50代 男性（福岡）】
- ・ 海岸線のペットボトル公害を減らしたい。よく、大陸（中・韓）からの漂流物が多すぎるなどの意見もあるが、実際には県内から出てくるゴミがほとんど。【60代 男性（福岡）】
- ・ SNS で広めて欲しいです。全く知りませんでした。でも取り組み自体はしていました。【20代 女性（福岡）】
- ・ 購入がワンヘルス推進につながるようなグッズがほしいです。【20代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスのことを知っている人は本当に少ないと思いますので県民へ分かりやすく発信していただければと思います。【50代 男性（福岡）】
- ・ 耳にする機会が少ないので、もっと周知してもらえると内容理解に取り組みます。【40代 女性（福岡）】
- ・ 動物のために人間の生活の選択肢が狭まらないように意識して政策をすすめてほしい。特に、「かわいそうだから」が理由になることはないように気をつけていただきたい。【20代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスの課題というのを初めて聞きました。日常意識してない行動が取り組みになっていることが少しだけ嬉しかったです。これからも続けていこうと思います。【20代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスは、ひとことでは語れないほどテーマや対象が広く多岐にわたるので、理解していくのはとても大変だと思います。そこで、少しずつ広めていただければ。小学校では、大変大雑把な概論は教えるが、自然破壊と具体的な環境災害、そのためにできること、などを具体的に教える。中学生くらいからはその連鎖の仕組みを単純化して教え、高校生からは理論的に教えていく。このようなステップアップで推進頂きたい。【60代 男性（福岡）】
- ・ 薬剤耐性菌は知らない人が多いので、もっと広めてもいいと思う。子どもが耐性菌に感染し、とても苦労している。【20代 女性（福岡）】

- ・ ワンヘルスについて子供への分かりやすいチラシや勉強会、イベントがあるといいなと思います。【30代 女性（福岡）】
- ・ 重要性がまだ、理解できていないので、今後もわかりやすい周知の仕方をしてほしい。【60代 女性（福岡）】
- ・ 研究等有意義だと思いますが、研究成果は国や県の財産です。迂闊な管理体制で知的財産等を他国に奪われないような対策をお願いしたいです。研究内容も国民県民の生命に関わる事ですので、是非日本人がきちんと管理するような体制をとってほしいです。【40代 女性（福岡）】
- ・ 小鳥も含んでいると解釈してもう少し彼らの健康状態も今後考えてやりたい。【70歳以上 男性（福岡）】
- ・ みやま市に設置ということですが、県南であり、どう福岡県各地の県民にその活動を広げていくかが課題と思います。【60代 男性（福岡）】
- ・ 具体的にどのような活動をしているのか発信をしてほしいです。【20代 男性（福岡）】
- ・ 街中にいるので動物と触れ合うのは動物園かそのような施設のみ。住居ではペット飼育が許可されていないし特段、動物と触れ合いたいとも思っていない。若干のアレルギーがあるのでその方が心配で動物類との接触には距離を取る。【60代 女性（福岡）】
- ・ 自然を大事に環境汚染せず人と動物の共存の考え方は共感しますので自然を大事に、そして環境意識をもって人々がそれぞれモラルを持って行動するだけのことだと思うので環境に対する優先順位を人々の意識から上げるよう啓発するほうがよほど良いと思います。【40代 女性（福岡）】
- ・ まだ広く知られていないと思うのでイベントなどでPRする必要が有る。【70歳以上 女性（福岡）】
- ・ 自治体レベルで実現する問題ではなく、国主導で行うレベルなのかなという印象です。具体的にどういう取り組みが必要なのか、よくわかりません。【40代 男性（福岡）】
- ・ 食べ物を粗末にしない。取り組み【50代 女性（福岡）】
- ・ 環境保護は、各個人ができる範囲取り組むべき課題であると思います。今の時代避けては通れない問題だと感じています。私も自分でできることには、積極的取り組んでいます。【60代 男性（福岡）】
- ・ 人獣共通感染症の発生頻度・率について、それが本当に危険なものであるならもう少しアナウンスすべきではないか。ペットショップや病院は当然として、一般の商業施設等に協力を依頼してはどうか。【50代 男性（福岡）】
- ・ 自転車を日頃から使っていますが、最近少しずつ自転車レーンができています。これからも増やしていただくとより快適に使えるのでお願い致します。【30代 男性（福岡）】
- ・ 希少動物がいる地域には、ある程度規制を設ける必要がある。内容が違うかもしれないが、日本のペット事情がひどすぎる。ペット屋さんに限らずブリーダーのチェックが必要。又ペットに向かない種まで売ってるような気がする。【60代 女性（福岡）】
- ・ 今まで通りこれからも取り組んでいきたいです。【50代 女性（筑豊）】
- ・ 鳥獣害被害の対応などとも関連して事業を進めていただきたい。【60代 男性（筑豊）】
- ・ ワンヘルスの言葉が余り理解出来ない。問4だが、抗生物質は服用したくない 死ぬかもしれないコロナワクチンも死ぬかもしれないコロナワクチンを推奨するのは間違えだ。ふれあい動物園での手洗い、消毒こそ係員をつけ強制しないと完全の原因になる(セルフ検温も同様)コンビニでの肉まんなどの、付属の酢醤油、

カラスなどは希望者のみに渡す様にしないと不要な方は捨てる。野良猫問題に困っているため、図書館にて本を借りたり、市役所にて相談をしている。田舎は車が必要 公共の交通機関と言われるとイラつく。エコバックは野菜、精肉、日配などで汚れてお手入れ方法が不明だ(逆効果)。【30代 男性 (筑豊)】

- ・ 妻が獣医なので先ほど教えてもらった。ただもっとPRを推進してほしい。【20代 男性 (筑豊)】
- ・ ワンヘルスという考え方は、新しいのでしっかり勉強します。【50代 男性 (筑豊)】
- ・ ペットに口移しなどで餌をあげる人がいますが、ちょっと私にはできません。【20代 男性 (筑豊)】
- ・ 問4に記載されている12の項目は当然であり、これがワンヘルスであるのであれば、ほとんどの人はわかっている、やっているよと言うと思います。ワンヘルスという語句と行動があっていないため、多くの県民はワンヘルスって何と思うのでは。【60代 男性 (筑豊)】
- ・ 子供を育てている子育て世帯をターゲットにワンヘルスの取り組みイベントをして欲しい。もし今していたとしても増やして欲しい。田舎は中々ないので、福岡県全体で地域差なくワンヘルスに関する事が学べる環境を作ってください。【40代 女性 (筑豊)】
- ・ 「SDGs」のように、「言葉は知っているけれど、意識高い系の人やるやつでしょ」と斜に構える人が(周囲には)多い。必要性や内容を広く認知してもらうために、積極的な情報発信番組の作成や屋外参加型イベント(食品ロスやゴミ削減を意識した出店など)の実施をしてほしい。楽しみながら入ってきた情報は自然と自分の意識へ繋がると思う。【20代 女性 (筑豊)】
- ・ ふれあい動物園や動物園がより自然に近い形で住める動物園的ところが身近に欲しいです。【30代 女性 (筑後)】
- ・ ワンヘルスに関してはまだまだ知らない事が多い。啓発につとめるべきだ。【60代 女性 (筑後)】
- ・ 食料は適量買って使い切るようにしたいと思う。ペットはいないので動物と触れ合う機会はないが、飼っている人たちは衛生管理に注意してほしい。【60代 女性 (筑後)】
- ・ 荒れた山林の保護を求めたい【50代 女性 (筑後)】
- ・ ワンヘルスと一言で言うにはジャンルが様々で何を指すのか分かりにくいと思います。【50代 女性 (筑後)】
- ・ 人畜共通感染症には、具体的にどのような病気があるのか、どんな病態なのか、知りたいです。【40代 女性 (筑後)】
- ・ 集約畜産・工業型畜産を避け、環境への負荷に配慮した伝統的な畜産へのシフトにも注力していただきたいです。【30代 男性 (筑後)】
- ・ 食品ロス削減のため、飲食店で食べ残してしまった食事を持って帰ってもいいよという表示があると嬉しい。わざわざ税金を使って、新しいマークは作らなくていい(覚えることが増えてしまう)ので、文字で表示しましょうというような、表示推進程度でもいい。表示例を作成すれば、おそらくそれをそのまま皆使うと思う。表示の際には、目につきやすいように、こういう部分に、これくらいの文字の大きさだと読みやすいでしょうというアドバイスが記載されていると、おそらく店側はなるべくその通りにしようとすると思う。【30代 女性 (筑後)】
- ・ 次世代へのとても大事な取り組みだと思います。行政面でも積極的に取り組まれ、多くの企業も含めて県民各層がワンヘルスの概念を意識されるよう、あらゆるイベントなどを通して周知されるべきだと思います。【60代 男性 (筑後)】
- ・ ジビエの消費に力を入れてもらいたい【40代 男性 (筑後)】

- ・ワンヘルスという言葉をもっと浸透させる取り組みがあると良いと思う。【40代 女性（筑後）】
- ・ワンヘルス運動の啓発をどのようにしていくかが大切ではないかと思います。【30代 女性（筑後）】
- ・言葉意味をもっとわかりやすくして説明してほしいです【40代 男性（筑後）】
- ・まったく知らなかった言葉でした。福岡都市圏でも野生の猿やイノシシなどが見られるようになりこのような人獣共通の感染症の事を今後は知っていく必要があるのかもしれないね。田舎、山岳地帯だけの話ではなくなってきたのと『ジビエ』という言葉も多くの人に浸透してきているので、今後はこのようなアピールも大事になってくるのではないのでしょうか？【40代 男性（筑後）】
- ・福岡は野良猫や外飼いの猫が多すぎます。飼い猫は外に出さないことを周知してほしい。野良猫へ避妊手術の推進もしてほしい。【20代 女性（筑後）】
- ・野良犬は見かけなくなりましたが、野良猫はまだ多く、保護団体や個人で譲渡会も行われています。ただ個別活動が多く、保護する人達の大変さや苦勞を思うと、何か良きアドバイスや案があればと思います【60代 女性（筑後）】

問7 ワンヘルスについて、これまでの設問以外に意見がありますか。ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

- ・ワンヘルスについては幅広い問題を含んでいるのですべてを理解することは難しいと思うが一つ一つが大切な問題なので少しずつでも理解を深めるために地道な広報活動が大切だと思う。【50代 男性（北九州）】
- ・本題とは離れるかも知れないが、各個人が生き物を飼う、自然に触れ合うことはその人の自由であろうが、その事で他人や自然環境に迷惑を掛けないという意識を持って欲しい。【70代 男性（北九州）】
- ・人間の生存、生活にそれほど必要性のない物、利用価値、使用価値の少ない商品等の過剰生産を制限するようなルールがあってもいいのではないのでしょうか。そのような物（商品）の生産は、資源（素材も労力も）の無駄遣いだけでなく、売れ残り商品の処理にも無駄なエネルギーを要して二重の資源浪費であり、環境破壊です。物（商品）を作り、世の中に頒布する行為には負の側面もあり、今まではその負の側面にあまりフォーカスせずに自由気ままにやらせていたと思いますが、これだけ環境への負荷が高くなってきているいま、一定の制限が必要ではないのでしょうか。いまのままでは、そう遠くない時期に「持続不可能な社会」になると思います。【60代 男性（北九州）】
- ・問6にも記載しましたが、分析する力と説明し、国民を導く力が必要とされますので強化に取り組んでいただきたいです。【30代 男性（北九州）】
- ・以前に比べて、環境保全の意識は高まっているように感じる。但し、各自で実行できる範囲に個人差が大きいので、強制されて行うことになれば無理が生じる。継続的に行うためには個人個人ができる範囲で環境に貢献するように意識することだと考える。【50代 女性（北九州）】
- ・これから未知のウイルスが出現することを前提に置いた予防対策としてとても重要だと思いました。特に若年層への啓蒙が有効だと考えます。【50代 女性（北九州）】
- ・ワンヘルス（One Health）の考えを非常に重要だと思しますので、もっと積極かつ効果的な広報活動を行っていただきたい。【50代 男性（福岡）】
- ・まずは、ワンヘルスという考え方の必要性を知らせることが大切だと思います。ただ、世界的な取り組みとは思いますが、今まで国内でやっていたことはないのでしょうか。今までしてきたことをもっとこのように進めていきたいと思います

- う方が、物事は進む気がしています。【60代 男性（福岡）】
- ・ 先日のイベントに参加しました。盲導犬、セラピー犬のコーナーをもう少しアピールして欲しかった。【50代 女性（福岡）】
 - ・ これも知らない人がほとんどだと思います。【40代 男性（福岡）】
 - ・ 何か今まであった取組みをただ一緒にしただけのように思えてしまう。そんなに力を入れることではないような。他にもっと大事なことがいっぱいありそう。【40代 女性（福岡）】
 - ・ これらのことを周知するために専門家達による講演会などされたら県民のかたの意識が向上するのではないのでしょうか。【70代 男性（福岡）】
 - ・ 減農薬、無農薬の野菜を作るようにして欲しい。牛、豚、鳥肉等は、たくさん食べないで野菜中心にして命を守ってあげたい。昔の生活に戻して、地産地消をこころがけたいです。【60代 女性（福岡）】
 - ・ 理想を掲げるのは結構だが、筑後広域公園のカーボンゲートや石龍、カーボンハット、あれに3億以上の税金を使うことで、何がどのように啓発されて、ワンヘルスに貢献したのか、全くもって理解不能。医師会、獣医師会が絡むと碌なことない。やりたきゃ自腹でやれ、としか思えない。【40代 男性（福岡）】
 - ・ 最初、犬の健康管理かと思った。世の中変わったなあと。違ってた。【70代 男性（福岡）】
 - ・ 最近は鳩や雀等の鳥類が人間を怖がらなくなるとても近くまで近づいてくることがある。鳥のフンは病原菌等が混じっていて人間に害を及ぼすことがあるので適当な距離があるほうが望ましいと思う。駅や公園などで鳥類が住みついたり近づきすぎたりしないような工夫をしてほしい。【60代 女性（福岡）】
 - ・ ペット（犬）などの糞の処理をしない人がいるので、モラルのなさを感じます。これらの人にも、何らかのペナルティーを与えてもいいのではと思います。【50代 男性（福岡）】
 - ・ 一個人もしっかり協力していきたいと思いました【70代 女性（福岡）】
 - ・ より知りたいなと興味を持ちました。【20代 女性（福岡）】
 - ・ 地域自治会レベルでの教育推進にも力をいれていただけるとありがたいです。さらにいえば、環境維持などについて毎年どの程度の効果（貢献）があったかを、机上の数字だけでなく、具体的に県民にアピールいただくことは難しいでしょうか。【60代 男性（福岡）】
 - ・ 子供が動物と触れ合うことが好きで、それはとても良いことだと思うので、うまく共存しながら感染症などの不安なく動物と触れ合っていきたいと思います。【30代 女性（福岡）】
 - ・ カタカナ表記がかえって意味を分かりづらくしている気がする、日本語表記にならないのか？【60代 女性（福岡）】
 - ・ 調査の目的文→「森林開発や農地化などの土地利用の変化によって、自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動が生じています。」日本においては都市化によるヒートアイランド現象はあるかと思いますが、地球温暖化は政治的な判断なので安易に使う表現ではないと思います。【40代 女性（福岡）】
 - ・ 調査の目的文→「また、人が今まで立ち入らなかった自然の奥地にまで侵入することなど」田舎は過疎化が進み、限界集落も多いです。奥地に住む人間は日本ではかなり減少していると思います。そのため野生動物が増えて（駆除も間に合わず）、食べ物が豊富な都市に近い畑まで下りてきているというのが現状ではないのでしょうか。原因が反対なのではないのでしょうか。野生動物の被害に困っている田舎に住む人々にインタビューはされましたか？県庁に農政部門があると思いますが、連携されて現状把握をなさってはいかがでしょうか。【40代 女性（福岡）】

- ・ 老人が増えてます 私の公営団地では犬猫が飼えません、条件によっては飼育可能とした施政が欲しいです【70代 男性（福岡）】
- ・ 「ワンヘルスセンター」について、どういふことを行う施設なのか等を積極的に広報してほしいです。【30代 女性（福岡）】
- ・ 正直、WHO など国際機関、公益社団法人医師会などの取り組みにはコロナ禍になり信用がなくなり懐疑的に見てしまいます自然を大事に環境汚染せず人と動物の共存の考え方は共感しますが、国際機関（西側思想）は、表向きは良いことを言うが、結局は利権や圧力を生み出している。今回のコロナ禍でもそうですが関連組織に理不尽がありすぎて正直ついていけない（日本国、一般庶民はいつまでタカられ内政干渉され続けるのか…）【40代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスには次の感染症対策もあると思いますが、現在のコロナウイルスについてすら、研究者、学者の方々、様々な意見が出て来るようになったにも関わらず検証、精査せず一辺倒でワクチン打て打てという流れです。民間製薬会社が莫大な儲けが出ている以上、懐疑的に見てしまいます。国際協調という枠から逃れられないのかもしれませんが、福岡県は流されず対応してほしいと思います【40代 女性（福岡）】
- ・ 県の取り組みをテレビや新聞のニュース等で取り上げるといいと思います。【70代 女性（福岡）】
- ・ そんなことよりも基礎体力と免疫力を高めることに真剣になった方が良い。そこを疎かにしては何も解決しない。【50代 男性（福岡）】
- ・ 行政が、とりくむべき課題と思います【30代 男性（福岡）】
- ・ 令和2年12月に『ワンヘルスの実践促進に関する条例』が制定され、本年9月の定例会最終日に『ワンヘルスの実践促進に関する条例』が制定されたとの事です。しかし、現在県政で最も重要なことは、物価の高騰、保険料等が増加する事、それにコロナウイルスの対応です。『動物との良い関係づくり』の前に。県民の健康と生命を守る事が最重要課題です。よろしく願います。【70代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスの言葉の認知度がまだまだ低いと思う。広報紙などに記載するべきだ【30代 男性（筑豊）】
- ・ ワンヘルスという言葉が県民の理解を阻害しているように思います。もっと県民が理解し易い言葉に変更したらいいと思います。【60代 男性（筑豊）】
- ・ 名前から内容が連想しにくい。【40代 男性（筑豊）】
- ・ ワンヘルスという言葉は、周りには浸透していません。他に何かあるのか？これがとても難しいです。申し訳ありません。【40代 女性（筑豊）】
- ・ とても大事なことだと今回改めてわかったのもっと県民にもPRして、一人一人の意識づけをして行った方が良くと思う【20代 女性（筑後）】
- ・ 大変な問題だと思うので簡単にはいかないと思いますがコロナみたいな事は今からまたあると思うので県民一人一人が考えていかなければならない。【60代 女性（筑後）】
- ・ サルやイノシシが民家におりてきて被害を与えている。またカラスもゴミをあさって、ゴミ袋を破ってゴミをまきちらし、迷惑になっている。自治体は対策を考えてほしい。地域住民にゴミの出し方も周知してほしい。【60代 女性（筑後）】
- ・ 広くこのようなことを知ってもらおうキャンペーンなどのPRをした方が良く【50代 女性（筑後）】
- ・ うちの周辺には野良猫がいるので、気をつけたいです。【40代 女性（筑後）】
- ・ SDGsみたいな感じの取り組みとしても、自身でも可能な限り無駄のない健康的な生活を行いたいと考えています。ワンヘルスとは若干ズレるかもしれませんが、資源の無駄使いを抑止するためにもあらゆる分野でのリサイクル（循環型社会）も重要だと思います。【60代 男性（筑後）】

- 田舎では、昔ほど野生動物を捕獲(または狩猟)することが減り、害獣被害が多い。ワンヘルスの考えも判るが、動物被害等も考え、野生動物の数の管理も行っていく必要があると感じる【40代 男性 (筑後)】
- コロナウイルス感染症がワンヘルス運動の啓発になったことは人類にとっていい機会ではないでしょうか。【30代 女性 (筑後)】